

発明大賞受賞者の 生の声から学ぶ 発明の秘訣、発想力、 そして苦労話

平成28年4月18日、当協会の科学技術週間参加行事として恒例の第46回「優秀発明発表会」がJAM金属労働会館（渋谷区）3階で開催された。多くの参加者が受賞者の発表に耳を傾けた。



発明大賞本賞をはじめ各賞の受賞者を迎え、受賞理由となった発明の詳細について話をうかがえるまたとない機会とあって、JAM金属労働会館には多くの参加者が集まった。

発表会は保坂実事務局長の司会で進行。開会に当たって原昭邦会長より、「このたびの熊本地震で被災された方々に、お見舞いを申し上げます。『発明の日』である4月18日の週は『科学技術週間』と定められており、当協会も我が国の科学技術振興の一翼を担う団体として、この取り組みに賛同し、発表会を開催しております。発表者の方々の取り組みを、皆様の事業に役立てていただければ幸いです」と、挨拶があった。

続いて、受賞者の発表となった。まずは、「植物の特性を利用した防草技術」で発明大賞本賞を受賞された石川重規氏が発表。石川氏は、「防草ブロックは自治体から求められている技術で、このたび売り上げも1億円を突破しそうです。また、5月からは新製品の防草タイトの発売を開始します」と、植物本来が持つ性質に着目し、自ら成長を抑制することで防草を可能とした目地構造について紹介。自治体への納入が進んでいる実績に触れながら、将来は各地のインフラ整備に貢献できると展望を語った。「揚水用の地上設置型フート・バルブ」で東京都知事賞を受賞した（株）イシザキ常務取締役の石崎信之氏は、大田区の小きな町工場として創業以来、時代の流れにあわせて技術革新を図ってきた経緯に触れ、受賞対象となった発明に言及。「当社はチャッキバルブの市場でトップシェアを誇って

きましたが、販売50年を過ぎて市場がマンネリ化し、営業活動の“ガラパゴス化”が進んでいました。お客様の声を聞いたところ、フートバルブに困っているという意見をもとに開発を開始しました」と、解説した。

大賞4賞の受賞者4氏の発表のちに休憩を挟み、発明功労賞4氏、考案功労賞2氏の発表があり、合計10氏の受賞者による発表があった。技術に関する質疑応答も行われた。

発表会終了後、会場を発明振興会館2階会議室に移し、懇親会が開催された。加藤忠郎副理事長から「本日はご参加いただき、ありがとうございます。受賞者の方々のお話は大変有意義でした。懇親会の間を、皆様のビジネスに役立てていただければ幸いです」と挨拶し、乾杯の後、会食へ。発表内容について受賞者に詳細をうかがう人も多く、名刺交換も活発に行われて盛況に終わった。

〔発表内容と発表者〕

		① 発明大賞本賞 「植物の特性を利用した防草技術」	石川 重規
		② 発明大賞東京都知事賞 「揚水用の地上設置型フート・バルブ」	（株）イシザキ 常務取締役 石崎 信之
		③ 発明大賞日本発明振興協会会長賞 「超音波バリ取り洗浄装置」	（株）ブルー・スター R&D 会長 柴野 佳英
		④ 発明大賞日刊工業新聞社賞 「傾斜クランクピンをもつ「R-θテーブル」とメネジ加工法」	（株）エムエイチセンター 代表取締役 青山 進
		⑤ 発明功労賞 「加圧による塑性流動を利用した異種材料接合技術」	久保金属株 代表取締役 久保 祐一
		⑥ 発明功労賞 「高速溶接技術を搭載したテーブルスポット溶接機」	株向洋技研 技術部副部長兼課長 甲斐 孝治
		⑦ 発明功労賞 「タンニン酸を用いた口腔内前壊疽の製造技術」	テイカ製薬（株） 創薬新製剤研究部 部長 島谷 隆夫
		⑧ 発明功労賞 「粒径や粒内気泡の揃ったフェノール樹脂球状粒子の製造方法」	リグナイト株 取締役開発部 部長 井出 勇
		⑨ 考案功労賞 「情報漏えいを防ぐ根源対策型セキュリティソフトウェア」	サイエンスパーク株 社長室 野崎 隆
		⑩ 考案功労賞 「不正燃料の判別方法及び判別装置」	三晃精機株 専務取締役 笹岡 逸夫

発表内容（受賞技術内容）は、前号「発明と生活5/6月号—第41回発明大賞特集号」No.588をご参照ください。